

会議の名称	第2回 和泉市都市再生整備計画事業評価委員会
開催日時	平成25年1月25日(金)午後2時から3時まで
開催場所	コミュニティセンター1階小集会室
出席者	<p>【委員】 内田 敬 委員長・藤田 香 副委員長・西岡 渥美 委員</p> <p>【事務局】 都市デザイン部 都市政策監 : 松林 同 再開発担当次長 : 坂口 同 再開発課長 : 矢倉 同 再開発課係長 : 池辺 同 再開発課 : 大内 同 再開発課 : 田山 同 道路河川室長 : 木岡 同 道路河川室参事 : 近藤 同 道路河川室参事 : 高嶋 同 道路河川室 : 三木</p>
会議の議題	都市再生整備計画事業評価について(JR和泉府中駅周辺地区)
会議の要旨	事後評価シートの様式の修正について
会議録の作成方法	全文記録 要点記録
記録内容の確認方法	会議の議長の確認を得ている。 出席した構成員全員の確認を得ている その他()
その他の必要事項	会議公開 傍聴人数 1名
審議内容	別紙のとおり

（司会者）

定刻となりましたので、ただ今から第2回和泉市都市再生整備計画事業評価委員会を開催いたします。本日は皆様方におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席賜り誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます私、都市デザイン部再開発課の池辺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、本委員会は前回同様、和泉市審議会等の設置及び運営に関する規則に基き、委員会を公開とし、傍聴を認めておりますので、よろしくお願いいたします。また議事録についても公表させていただきますのでご了承願います。それでは、お手元の次第に従いまして、進めさせていただきます。なお議事の進行につきましては内田委員長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（内田委員長）

それでは進めさせていただきます。まず、前回のことを踏まえて今日の方針のようなものをお話させていただきたいと思っております。前回事務局側から具体的な案についてご提示頂いて、その内容について主に事業の評価に関して言うと、表現の仕方とか、見た目に関して検討の余地があったような気がいたしまして、特に実際に事業としましては、まだ途中段階にあるということから、あまり答えが出ているというような表現をしない方がよいのではないかなという点で、本日いくつか意見を携えてきています。

また、前回の議論においても、いろいろなご指摘が出た訳ですが、評価の中身について大きな問題というのはご指摘無かったという事で理解しております。今日も評価書としましては、事務局が表現方法を変えていますので、その結果について委員で検討していきたいと思っております。もう一つはフォローアップという形で、毎年見ていくわけですが、それが重要になっていきますので、そちらについて評価書にどれだけ盛り込むかということにつきましては、必ずしも盛り込めないということが多いと思っておりますが、せっかく集まって議論したわけですから、議事録の方できちんと整理するという事を前提として忌憚のない意見を頂く方がよいのではないかなと思っております。時間にして4、50分くらいと思っております。今お手元にあります様式2-1と2-2に関しては、若干の文言修正というのがあり得ますが、必要な審議を経ていますので、市長から諮問を頂いたことに対する答申という形でまとめていきたいと思っております。

しかしながら、ご覧頂いてこれはもう少し検討してもらわないと困る。という所がありましたら、今日必ず終わりということではないので、遠慮なくおっしゃって頂きたいと思っております。

では事務局において改訂した資料について説明をお願いします。

（事務局 田山）

再開発課の田山です。失礼して座ってご説明させていただきます。まず、配布資料の確認をさせていただきます。1枚目は次第になっております。2枚目はA4サイズで第一回評価委員会のまとめになっております。3枚目はA3サイズで事後評価シート様式2-1の新旧を載せたものになっております。4枚目もA3サイズで、事後評価シート様式2-2の新旧を載せた

ものになります。

それでは、前回事後評価シートについてご指摘頂きました点を修正しておりますので、それを中心にご説明させていただきます。まず A4 サイズの 1 枚目「第 1 回評価委員会まとめ」を上から順に見ていきたいと思えます。

指標 1「図書館の貸出人数」について見ていきます。前回、《来館者数で見た方が良いのではないかと》ご指摘を頂きまして、その横、修正事項について、フォローアップ時に来館者数を追加して評価する旨を総合所見に記載しております。こちらにつきまして、様式 2 - 1、A3 サイズの評価結果のまとめの指標 1「図書館の貸出人数」の効果発現要因（総合所見）のところに、赤文字で記載しております。こちらを読ませて頂きます。

『駅前フチュール和泉（施設建築物）に移転し、利便性が向上した事により貸出人数は大幅に増加した。目標値には至らなかったが、今後歩行者デッキが完成し、駅からのアクセス性が向上すれば更なる増加が見込まれる。また平成 23 年度に来館者数を計測する機械を設置したので、フォローアップを行う際に「人の賑わい」を示す指標として「図書館の来館者数」を新たに評価項目として加える。』というように修正いたしました。

まとめの方に戻りまして、二つ目の 《目標値の設定に無理がある》《もう少し積極的な評価が出来るのではないかと》とその下の 《文化的なレベルを数値化して評価していいものか》というご指摘につきましては、今後目標値の数値設定する際には現実に則した数値を出すようにし、また評価項目を設定する際には、事前に慎重な検討・議論をしていきたいと思っております。これで指標 1 については終わります。

続きまして、指標 2「JR 和泉府中駅の乗降客数」について、《JR のダイヤの変更は考慮しなくてよいのか》という指摘事項と、その下の 《総合所見の文書の変更が必要ではないか》というご指摘につきまして、乗降客数が増加した要因につきましては、人口増加に加え、JR のダイヤの変更も関係しているので、その旨総合所見に記載しました。フチュール和泉が出来たから増えた旨の記載は削除しております。様式 2 - 1 評価結果のまとめの指標 2「JR 和泉府中駅の乗降客数」の総合所見欄をご覧ください。

『乗降客数は増加し目標値をクリアした。要因としては市の総人口が増加傾向にあるとともに、住宅棟を含むフチュール和泉の完成により、駅周辺人口が増加した事、また JR のダイヤの変更等も影響していると考えられる。今後マンション等の計画も予想され、更なる駅利用者の増加が見込まれる。』というような文章に変更いたしました。

乗降客数については、《乗降客数以外に何か指標は考えられないのか》というようなご指摘も頂きました。そのご指摘につきましては、人の賑わいを示す指標としまして、和泉府中地区商店街・地域活性化まちづくり協議会というのが今現状活動しておりますので、そのまちづくり協議会が商店街の通行量調査というのを実施すると聞いております。そして、その商店街の通行量調査を活用出来るかどうか現在検討中でございます。詳しくは今年の 2 月に報告を受けることになっておりますので、その報告を頂いてから実際に使えるかどうかということを検討していきたいと思えます。

これで指標2の説明を終わります。

続きまして指標3「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる割合」です。

こちらにつきましても《総合所見の文書の変更が必要ではないか》とご指摘頂きました。アンケートの質問内容は、「和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じますか」と聞いているが、指標の名称が「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる割合」となっており、名称が変更できないので、総合所見の冒頭にその旨を記載しております。指標3の総合所見を読ませて頂きます。

『「和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じますか？」のアンケートに対し、「非常に感じる」「どちらかといえばそう感じる」割合の数値は目標値には達していないが、上昇している。要因としては、フューチャー和泉の完成や区画道路等、駅周辺地区の整備が一定図られ、利便性が向上した事等が考えられる。なお今後事業の完成に伴って数値の増加は期待できる。』

というような文章に変更いたしました。

まとめの方に戻りまして、指標4の「不燃領域率」について説明させていただきます。この指標4についてご指摘頂いたのが、《フォローアップを行って継続して数値を計測していかなくてはいけないのではないか》ということと、《平成37年に50%という府が定めた目標について何も触れていない》ということについてご指摘を頂きました。それについては、引き続きフォローアップを行うことや、大阪府が平成37年に50%という目標を掲げていることについて総合所見に記載いたしました。そして、前回原案の数値は平成23年1月1日の資産税の課税台帳に基づいて数値を出していましたが、最新の平成24年の1月1日時点の数値へ変更しております。それでは、様式2-1評価結果のまとめをご覧ください。指標4の「不燃領域率」のところで、前回の原案時点では、49.8%だったのですが、最新の課税台帳を用いて算出したところ、50.6%と数値を変更しております。それと総合所見の文章も変更しております。では読み上げます。

『木造密集市街地を整備したことにより防災面の改善が図られた。本地区は大阪府の指定する「災害に強い住まいとまちづくり促進区域」に該当し、府の基本方針では平成37年まで促進区域内総平均で不燃領域率を50%以上にするという目標を掲げているため、引き続きフォローアップを行う。』そしてフォローアップを行う時期を、平成28年6月ということで修正しております。

これで指標1から指標4の説明を終わります。

次にA4のまとめのところの指標4の下「目標達成度」についてですが、「1年以内の達成見込み」のところで、《目標の達成時期を入れる方がよいのではないか》とご指摘を頂きました。それにつきましては、「1年以内の達成見込み」を「目標達成の見込み・時期」という項目名に変更しております。それと「目標達成度」を「目標達成度(平成24年度)」に項目名を変更しております。指標1については平成28年度を目標達成の見込み時期として記載しております。指標2、指標4については、目標を達成しておりますので空けて

おります。指標3につきましては、第4次和泉市総合計画の中の数値で、最終年度を平成27年度にしておりますので、目標達成時期を平成27年度と記載しております。

様式2-1 評価結果のまとめの旧、下の方をご覧ください。ちょうど真ん中あたり、「数値」の「モニタリング」についてなのですが、今回事後評価するにあたってモニタリングを実施しておりませんので、削除しております。そして新しく、「評価値」、「計測年度」というように書き換えました。

A4のまとめの方に戻って頂きまして、「4) 定性的な効果発現状況」については、《現状の事業の進捗状況を含めて記入するべきではないか》というご指摘を頂きました。これにつきましては事業の途中ですので、歩行者の快適性や回遊性が十分ではない旨を事業の進捗具合を含めて記載しております。様式2-1 新の「4) 定性的な効果発現状況」をご覧ください。それでは読み上げます。『フチャール和泉の完成や区画道路等一定の整備が図られたことにより、駅周辺に人が集まりつつある。しかし本地区は1期の事業途中で2期事業も控えているなかで、エリア全体をみて限られた場所しか完了していない。その為現状においては、駅前広場や自由通路、また駅の西側の道路整備が完了していない状況で、歩行者の快適性や人の回遊性が十分ではない。』というように新しく書き加えています。

A4のまとめに戻ります。「5) 実施過程の評価」につきまして、それぞれ《「モニタリング」「住民参加のプロセス」の「今後の対応方針等」に記入が必要ではないか》ということと、《住民参加についての考え方、まちづくり協議会も住民参加ということに該当するのではないか》ということ、《「住民参加プロセス」・「持続的なまちづくり体制の構築」の間の線はいらぬのではないか》というご指摘を頂きました。

これにつきましては、「今後の対応方針等」としまして、評価項目に掲げた数値について、継続的に数値を計測していく。ということに記載いたしました。またまちづくり協議会も住民参加のプロセスに該当するとして記載しております。

様式2-1 新の「5) 実施過程の評価」をご覧ください。ここで「住民参加のプロセス」・「持続的なまちづくり体制の構築」の項目の下の線を取り、1つにしております。そして右側の「今後の対応方針等」に、『指標1～4やその他の数値指標、また追加で設定する項目につき継続的に数値を把握し、事業の効果を確認する。』と新たに記入いたしました。そしてその下、『継続して防災訓練を行っていく。再開発ニュースを発行している市街地再開発準備組合は解散したため、再開発ニュースを発行できないが、市の広報やホームページにて継続してまちづくり情報を発信していく。継続して「和泉府中地区商店街・地域活性化まちづくり協議会」の活動を支援していく。』と記載しております。

これで事後評価シート様式2-1についての説明を終わります。続きまして、事後評価シート様式2-2の説明に移ります。様式2-2につきましては、《【まちの課題の変化】について、項目立ての仕方について重点的に検討が必要ではないか》ということと、《【まちの課題の変化】【今後のまちづくりの方策(改善策含む)】を縦ではなく横に書いた方が見やすいのではないか》とご指摘を頂きました。項目立てにつきましては、防災面、駅周辺の

混雑、活力あるまちづくり、放置自転車この4つを課題として挙げました。それについて改善状況や、今後の方策を記載しております。

それともう1つ《フチャール和泉前の自転車問題についても検討してほしい》というご指摘を頂きました。これにつきましては、『自転車を放置させないための方策を官民協働で協議、検討し可能な対策を講じる。』と記載しました。

様式2-2新【まちの課題の変化】をご覧ください。

老朽化した建物が密集し、防災面で非常に危険な状態にあったが、災害危険性の高い木造密集市街地を整備したことにより、防災面の改善が図られた。

これにつきましては【今後のまちづくりの方策（改善策含む）】に

地元自治会や消防団、公共施設の管理者等と連携し、防災訓練を継続して行い、地域住民の防災意識向上に努める。と記載しています。

駅前広場や周辺の道路幅員が狭小な中、駅前、踏切前において自動車、自転車、歩行者が混在していたが区画道路の整備等で以前に比べると快適性が向上した。ただ、駅前広場や自由通路等の整備が事業の途中なので、完全には解消出来ていない状態である。

これにつきましては【今後のまちづくりの方策（改善策含む）】に

駅前広場や自由通路等の歩行者ネットワークの整備と2期事業で行う駅の西側の道路整備等で、自転車、自動車、歩行者が混在している状態を解消し、交通安全性や歩行者の快適性の更なる向上を図る。と方策を記載しています。

商業・業務機能の低下が目立ち、本市の都市核にふさわしい活力あるまちづくりが課題であったが、フチャール和泉を核とし、駅周辺に人が集まる基盤が出来上がりつつある。

これにつきましては【今後のまちづくりの方策（改善策含む。）】に

駅周辺に人が集まるための基盤整備が着実に進展しているため、人の回遊性の向上を図り、新設された「和泉府中地区商店街・地域活性化まちづくり協議会」の活動を通じ、既存商店街と連携し、活力あるまちづくりを目指す。と方策を記載しています。

フチャール和泉前の歩道に不法に駐輪する自転車の問題が新たに課題としてでてきた。

これにつきましては【今後のまちづくりの方策（改善策含む）】に

自転車等を放置させない為の方策を官民協働で協議、検討し可能な対策を講じる。と方策を記載しています。

以上で説明を終わります。

（内田委員長）

ご説明頂き、A4の対応表を見させていただきましたが、大部分は適切に反映するという風にされていますが、盛り込めなかった部分というのが、指標の1のところの2番目、3番目ですね。それから指標の2の3つ目のところ、これについては今回盛り込むところまで行けなかったのですが、これに関連する表現が様式2-1の新の方、1番下の「5）実施過程の評価」の1番右の所に若干触れられてはいるということで、「今後の対応方針等」で指標1～4やその他の数値指標、これは上に上がっている指標ですね。また、追加で設定する

項目というのが、今回は盛り込めなかったが、一応意識はしている項目ということではないですか？事務局はそんな意識もなかったですか？

(事務局 田山)

いいえ。そういうことです。

(内田委員長)

今回再度議事録に載せる際に確認しておきたいと思いますが、図書館の貸出人数を文化的な側面で、どれだけ良くなったというような意味で使っているのではないですよね。指標の1と2、トータルで何かと言うと、和泉府中駅周辺地区が賑わっているかどうかということを見ていくために、必要な指標として今あるのは、指標の1と2ですよね。けれども、他にもより良いと思えるものがあるので、その辺についてむやみに調査をするというのは良くないと思いますけれども、利用できるものについては利用していくことを引き続き検討していく方向で期待しております。

A4の資料についてご質問やご指摘があればお願いします。具体的な内容については様式ごとに見ていきたいと思えます。

無いようですので次に様式2-1ですけれども、上の新のところで、赤い箇所、読み上げもして頂きましたので、お気づきの点をご指摘して頂ければと思います。

(藤田副委員長)

1点だけ、体裁についてなので内容についてのご質問ではないのですが、今回「5)実施過程の評価」のところなのですが、「今後の対応方針等」のところの項目が「実施状況」、「実施内容」ともに「今後の対応方針等」なので、もし区分けできるのであれば、評価をしているのか、項目を分けているのかをわかるように、表現を変えた方がいいと思います。

(内田委員長)

ではこういうのはどうでしょうか？「5)」について「実施内容」、「今後の対応方針等」については、防災関連 - 防災関連、再開発ニュース関連 - 再開発ニュース関連、協議会関連 - 協議会関連というように一応対応関係が出来ていて、つけているのは、わかりやすいようにつけているのですよね。それを対応関係をもっとわかりやすく明示するために、「」、「」と表しては意味が強くなりすぎてしまいますかね？対応関係は明示できると思いますがいかがでしょうか？

(事務局 田山)

その方がわかりやすいので変更します。

(西岡委員)

「実施内容」のところですが、フチャール和泉の防災訓練、再開発ニュースの発行などは具体的ですけれども、まちの賑わいという点で、まちづくり協議会でいろいろな事業を立ち上げつつあるのですけれども、まだまだ今後の課題というところです。

今のところは、イベントをしたり、観光都市に向けてどうしていくかということ、まさに協議中でして、まだ見えてこないです。

(内田委員長)

まちづくり協議会の組織自体は立ち上がっているのですよね？

(西岡委員)

立ち上がっています。しかし、まだまだ1回目、2回目の段階ですので、これからいろいろ検証していかなければならないですね。

(内田委員長)

新規に出来て1回目、2回目という事実がある訳ですから、活動というのを設立というように変える方がいいと思いますね。今後の方針としては引き続き活動を支援していく。ということで。

引き続きお気づきの点ご指摘お願いしたいと思いますが、不燃領域率について、まず確認したいことは、府が指定している促進区域、区域内総平均50%のエリアと今回の対象エリアとでは大小関係は全くイコールではなかったですね。

(事務局 田山)

はい。イコールではないです。パワーポイントでわかりやすいものがありますので、説明いたします。赤のところが今回の都市再生整備計画区域で、青のところが不燃領域率を算出している5ヘクタールの区域になります。

(内田委員長)

青のところが、府が指定している領域ということですね。

(事務局 田山)

はい。青のところが府が指定している促進区域の5ヘクタールに該当します。

(内田委員長)

なぜ確認したかというのと、ここの文章が平成37年まで50%以上、一応最低限度はもうクリアしているというのに、なぜ引き続きフォローアップをしていくのかというのが文章として意味がわからなくなっているのので、例えば大小関係が逆であれば、残りの部分を引き続き見ていきます。という形でわかるのですが、そうではなかったのので、かなり書き方を変えないと意味不明な文章になってしまいますね。府の基本方針ではこうなっていますが、だから引き続きフォローアップを行うと、50%以上ということになりますから、50%になればそれでいい訳ですから。

(藤田副委員長)

確認ですが、青の地域が対象になりますと、青のエリアが新しく図書館が建っているエリアなので、大阪府の対象地域だけになると、数値がかなり高くなります。対象としている地域に対して、所見で何か入れないといけないというようになるのですか？

(内田委員長)

不燃領域率自体が、パッと見ると事業エリア全体を対象としているように見えるのですが、そこだけを対象としている旨を書かないと、わからないということと、そこに対して府は37年に50%を超えればいいとしていて、既に超えているのに、なぜフォロー

アップが必要なのか。その2点がわからないですね。

(藤田副委員長)

例えば、今回は府の対象エリアについては目標をクリアしているけれども、周辺を見るとそうではないので、それについてはフォローアップを行う。というような文章にしていけばいいかなと思います。

(内田委員長)

そうした方がより好ましいと思いますが、ただ市としてそういった高い目標を掲げるのかどうかということがありますね。

(西岡委員)

少し老朽化した木造家屋もありますから、対象地域だけの50%というわけではないのですか？

(事務局 坂口)

青の部分に対しては50%の達成は出来ていますが、この事業計画のエリアは赤の部分になるので、周辺についてはどれだけ達成されているかというのが、今後のフォローアップになると考えています。

ただ、青以外の地域というのは、木造家屋もたくさんありますが、耐用年数からするとかなり老朽化が進んでいますので、今後建替える時期になってきた時に、このエリアは商業地域、もしくは近隣商業地域なので、耐火建築物にしていかなければならないということになりますと、自然と不燃領域率が上がるはずですよ。

(内田委員長)

こういう表現はどうでしょうか。途中からですが『本地区の一部は大阪府の指定する「災害に強い住まいとまちづくり促進区域」に該当し、府の基本方針では平成37年までに促進区域内総平均で50%以上という目標を掲げていますが、当該地区においては既にその目標を達成している。ただし当該地区は本整備地区の一部であるため、引き続き地区全体についてフォローアップを行っていく』というような文章を事務局側でもう少し整理して頂いて、今日の終わりにもう一度確認のために読み上げて頂けますか？

(事務局 田山)

はい。

(内田委員長)

他のところはいかがでしょう？

(西岡委員)

大丈夫です。

(内田委員長)

2箇所だけ細かい事を言わせてもらいますと、「4) 定性的な効果発現状況」について第2文が「完了していない」で終わっていて、「その為現状においては」というのは少し変えた方がよいので、「その為現状においては」というのを「特に」に変えて、「駅前広場や自由

通路、また駅の西側の道路整備が完了していない状況で、の「で」を「にあり」に変えた方がよいと思います。

様式 2 - 1 についてはご意見よろしいでしょうか。

(藤田副委員長・西岡委員)

はい。

(内田委員長)

では、様式の 2 - 2 に移ります。

変更点は【まちの課題の変化】と【今後のまちづくりの方策(改善策含む)】になりますが、全体的な構成としては左右に対応関係が見やすいようにと。

(藤田副委員長)

体裁の細かなことばかりになって申し訳ないのですが、【まちの課題の変化】で今回構成を変えられた文章になっているのですけれども、1行目、2行目の関係は、左に同じく揃えるというルールなのか、下げるというルールなのか、上げるというルールなのか。

右の【今後のまちづくり方策(改善策含む)】については上がった、下がったと。

公式な文章なので、どのようなルールでもよいので、統一して頂きたいです。

(内田委員長)

エクセルなので少し不格好になっているんですね。

を除いて全部左側に揃えるのがいいですね。

(藤田副委員長)

あわせて言いますと、改行が言葉で改行されているのですけれども、こういった改行でもいいものなのですか？

(内田委員長)

画面上では普通に見えていると思うのですが、エクセルはしばしばこうなってしまうよね。

(藤田副委員長)

気になると言えば気になりますので、エクセルに貼り付けると私たちも悩まされるのですが、工夫の余地はあるかと思います。

少なくとも左側は揃えていただきたいです。

(内田委員長)

これは作業レベルのお話ですが、格式にもつながることですので可能な限りお願いします。

(事務局 田山)

わかりました。

(藤田副委員長)

もう一点完成度を上げるというところで、前回ご指摘していなければ申し訳ないですが、地図の上に載せて頂いている線は項目とくっつけることは出来ないのでしょうか？

特に、白抜きの細かい線というのは、なかなか見えにくいので工夫の余地があるのかなあ

と思います。それと、凡例についても、地図と被っていて文字が見えにくくなっているところと、地図上の色づけされた緑色と水色と赤色が指す施設が何かという説明が無いと、色で分けている意味をわかって頂けないのではないかと思います。市役所の位置を示すなら、敷地を囲むなどして頂くとよりわかりやすくなるのではないかと思います。それはフチュール和泉の写真が載っている、住宅棟、駐車場棟、商業公益棟を指し示している線も同じで直して頂ければと思います。

(内田委員長)

今ご指摘頂いた点、せっかく図があるわけですから、よりよいものにして頂きたいと思います。後は事務局におまかせという事で。

(藤田副委員長)

はい。

(内田委員長)

西岡委員何かご意見はありませんか？

(西岡委員)

はい。ありません。

(藤田副委員長)

また細かいことになりますが、まちづくりの目標が3つあるのですが、大目標は再構築を図るということで、丸(読点)は無く、目標1と2は丸(読点)をつけるということでよろしいですか？

(内田委員長)

事務局がそれを文章か、名詞的に扱うか、ということを一統していないが、いいでしょうかということですね。

(藤田副委員長)

大目標は明示するものですので、丸(読点)はいらないと思います。

(内田委員長)

これは表題だからということですね。

下のところはそれを具体化した、表現している内容で文章だから丸(読点)が必要と。そういうことでよろしいですか？

(事務局 田山)

はい。

(内田委員長)

細かいのですけれども、【まちの課題の変化】について、2項の2行目「以前に比べると快適性が向上した。」、「ただ…」と続きますが、ここを「ただし…」と続けていただいて、対応する右側の文章は「の」が多いので「駅の西側」を「駅西側の」として頂いて。

もう1つはご意見頂きたいのですけれども、右側4項の自転車のところですが、「可能な対策」の「可能な」というところが少し逃げをうっている印象がして。もちろん出来ない

ことはしない訳ですが。そこで、「有効な」、「具体対策」というようにしてもよいのではないかなと思います。

「可能な対策」としておいた方が正直と言え、正直なのですけれども、少し後ろ向きなニュアンスがあるように思いましたので。

(藤田副委員長)

あえて変えるのであれば、「有効な対策」、「適切な対策」というのはどうでしょうか。

(内田委員長)

ただ、それが本当に実現可能かというところがありますので。

.....

すいません。やはりもとのまま(「可能な対策」)で結構です。

(藤田副委員長)

先ほど先生もご指摘の、【まちの課題の変化】の2項の「事業の途中なので」というところが話し言葉になりますので、「事業の途中であるため」などと少し訂正して頂きたいです。それと、3項の「フューチャー和泉を核とし」というところは「核として」に訂正をお願いしたいです。

(事務局 田山)

ここにも、 、 という感じに番号をつけた方がいいですか？

(内田委員長)

ここは左右が見えているのと、混同する可能性が無いのでこのままでいいと思います。どうでしょうか？

(藤田委員長)

確かにここは左右で対応関係が見えていますので、このままでいいと思います。

(内田委員長)

ではこの件について結論にいきたいところですけど、図面の話、エクセルのスキルの問題等は適切に改善して頂くのと、先ほど比較的文章を長く変えた様式2-1の指標4を確認のために読み上げて頂いてもいいですか？

(事務局 田山)

整理しますので少しお時間を頂いてよろしいでしょうか？

(内田委員長)

わかりました。

今日はこれで確定して市長に答申ということでよろしいでしょうか？

「今日確定しました。答申します。」ということを宣言すればそれでいいのでしょうか？それとも、答申書の案のようなものは用意されているのでしょうか？

(事務局 坂口)

それはこちらで用意した方がいいのでしょうか？

(内田委員長)

はい。答申書の文章については事務的なものなのでお任せいたします。

(事務局 坂口)

それでは後日、答申書(案)を作成し、それを見て頂きまして、それでよろしければ頂くということで。

(内田委員長)

了解しました。

そして、今藤田委員からご指摘頂いたのですが、指標3について、「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる割合」について、「和泉府中駅周辺が利用しやすくなったと感じる市民の割合」というのが正しいのでしょうか。「市民」が入るか、入らないかですが、様式2-1の指標3と様式2-2の「目標を定量化する指標」とでは文章が異なるのですが。

(事務局 田山)

「市民」が入っているのが正しいので、訂正しておきます。

それではさきほどの不燃領域率の文章が整理出来ましたので読み上げます。

『木造密集市街地を整備したことにより防災面の改善が図られた。本地区の一部は大阪府の指定する「災害に強い住まいとまちづくり促進区域」に該当し、府の基本方針における平成37年までに促進区域内総平均で不燃領域率を50%以上にするという目標を達成しているが、当該区域は本地区の一部であるため、フォローアップ時には本地区全体で算定し、検証を行う。』

(内田委員長)

はい。

(藤田副委員長)

「目標を」の前に「という」という言葉がありますが、「という」は無くてもいいのではなかつたのでしょうか。

(内田委員長)

その点は修正して頂くとして、後の細かい文言の整合性等は委員長と事務局にお任せしてもらい、趣旨としてはこちらでよろしいでしょうか？

(藤田副委員長 西岡委員)

はい。

(内田委員長)

ではこれで終わりとさせて頂きます。どうもありがとうございました。

(司会者)

委員の皆様方どうもありがとうございました。

それでは最後に閉会にあたりまして、松林都市政策監よりご挨拶申し上げます。

(事務局 松林)

都市デザイン部の松林でございます。委員会の閉会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。内田委員長はじめ委員の皆様方には公私なにかとお忙しい中、2回にわたる委員会に

おいて大変貴重な意見、ご提案を頂き、本委員会が非常に意義あるものであったと感謝申し上げます。今後は審議の中で頂きましたご意見、ご提案を基に和泉府中駅周辺地区の活性化とまちの発展に繋がっていくよう取り組んでまいり所存でございます。委員皆様方には今後も引き続きご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます、甚だ簡単ではございますが、閉会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

（司会者）

ありがとうございました。

以上を持ちまして、「第二回和泉市都市再生整備計画事業評価委員会」を終了いたします。

ありがとうございました。